苅田町地域学校協働活動だより

NO.5　令和8年　2月号

苅田バトン ～地域の力で！子どもの未来へ～

編集／発行　苅田町教育委員会生涯学習課生涯学習担当
e-mail syogakuka@town.kanda.lg.jp　Tel 093-434-2044　Fax　093-434-5543

地域の人材が学校の活動を支える「地域学校協働活動事業」の各小学校の事例を特集してお知らせします。全6小学校の1年生が取り組んだ「昔遊び」を3校紹介します。

＜苅田小１年「昔遊び」地域の方３２名参加＞

いろはかるたを楽しむ

２月１０日（火）午前中、体育館で１年による「昔遊び」がありました。「お手玉」「あやとり」「はねつき」「けん玉」「カルタ」の５種類の遊びにグループで挑戦。子どもの感想『羽子板が初めてできた』校長先生の『多くの地域の方やPTAの協力があり、来年もやりたい』、と感謝の言葉がありました。

＜連携事例から昔遊びの良さを考える＞

３校に共通しているのは、地域の方々のパワーを感じたことです。将来の子どもたちのために少しでも助けになればという熱い思いからでしょう。そして子どもたちが普段、手に触れて遊ぶことのない道具や遊び方に熱中する姿から、現代では味わえない遊びの良さを発見したはずです。知らなかったことを知った喜びと地域の方々との温かいふれあいは、貴重な体験になりました。地域の皆さんの「子どもたちに元気をもらいました」との言葉に、大きな拍手で感謝することができました。みんなが幸せな気持ちになりました。

＜与原小１年「昔遊び」地域の方２６名参加＞

２月３日（火）午前中、体育館で１年による「昔遊び」がありました。「はねつき」「めんこ」「お手玉」「コマ回し」「けん玉」「竹とんぼ」「おはじき」「あやとり」「ダルマ落とし」の９種類の遊びにグループで挑戦。子どものお礼の言葉が『とても楽しかった』、地域代表の方は『各名人さんに教えてもらい良かったですね。私たちも新しい遊び方を知り、笑顔と元気をもらいありがとう』の感謝の言葉に感動しました。

輪になって「おはじき」を楽しむ

＜片島小１・２年「昔遊び」地域の方８名参加＞

２月９日（月）午前中、教室と運動場で「昔遊び」がありました。教室で「あやとり」「けん玉」「メンコ」「おはじき」「お手玉」、校庭で「コマ回し」「竹とんぼ」「羽根つき」「竹馬」「ビー玉」の１０種類の遊びの全てに挑戦。

やったことのない遊びばかりで、「かるた」や「コマ回し」に苦戦していましたが、何十回もやり続け、最後に成功しました。拍手喝采。

片島小６年家庭科「共に生きる地域での生活」授業にゲストティーチャー支援

２月４日（水）立春に猪熊区中園区長を講師に迎え、家庭科の授業を指導支援して頂きました。内容は「地域の人たちとのかかわりを見つめ、地域をより良くするために、子どもたちができることを一緒に考える」という狙いです。小地域福祉活動の年間活動計画書を教材にし、美化活動・防災訓練・盆踊り大会・敬老会・感謝祭・新年会・もちつき大会などの取組内容を紹介されました。子どもたちに「地域行事へ進んで参加してもらい、楽しい交流の場を作ろう」、と呼び掛けられました。

郷土愛

６年男の感想➡
『地域のおじさんやおばさんがどのように過ごしているのか』、その様子が資料でよく分かりました。これから進んで参加します。

区長の話
➡「地域行事の人集めに苦労」「スタッフの高齢化が心配」と語られました。

テーマ➢共生社会
『子どもと高齢者が共に生きる社会を実体験しよう』

『地域学校協働活動事業の実施状況に関するアンケート調査結果』より報告

事業の成果・効果

１「実施した活動は十分にできたか」
○活動の内容に差はあるが、全ての学校で「地域独自の郷土学習」と「登下校安全指導」は目的を達成した。

２「活動の効果は得られたか」
○学びの充実、地域の理解・関心が深まった。
○コミュニケーション能力の向上につながった。
○地域住民の生きがいづくりや自己実現につながった。

３「課題を解決するために、工夫・改善したこと」
○学校運営協議会の中で、学校が期待する活動内容を周知していった。
○教育委員会担当者から、地域と学校をつなぐような連絡調整をしていただいた。
○ＰＴＡ主催のイベントを開催し、保護者の学校への関心を高めた。
○計画や打合せは不十分だったが、実践して次年度に向けての課題を見つけた。
○推進員を中心に、学校運営協議会や生涯学習課と連携し、人材バンクを整備できた。

事業の課題・その解決策

１「実施した活動は十分にできたか」
●６校の共通課題は「授業補助・学習支援」。
（家庭や体育、書写、音楽、総合的な学習等の技術系）
●学校運営協議会（ＣＳ）との連携が不十分。
●「学びによるまちづくり」や「地域課題の解決型学習」「地域行事に関わる活動」が不十分。

２「本事業を実施する上でどんなことに課題を感じるか」
●学校内部➡教職員の理解不十分、余裕がない、受け入れ態勢が不十分。
●推進員➡学校との連携不足、力量や意欲の不足、継続的な人材確保や後継者育成。
●支援スタッフ➡学校側との打合せや計画案作りの（ボランティア）　時間確保・調整が難しい。
●行政➡教委と学校や地域の連携、学校と公民館との連携不十分。
●全体➡ＰＴＡや保護者の協力、地域社会の理解が不十分。

課題はまだありますが、各学校の積極的な取組みがあったから、多くの成果や効果が得られ、次年度への解決策が明らかになりました。

＜編集後記＞

令和７年度を振り返り、地域学校協働活動が各学校に少しずつ浸透してきています。来年度は、学校運営協議会との連携を強化し、「本部の設置・体制づくり」や「学校支援サポーターの募集・確保」など、地域の力を充実していきます。子どもたちの健全な成長・発達を目標に、これからも各小学校区の「地域学校協働活動推進員」が伺いますので、活動情報をお寄せください。よろしくお願い致します。